

# テロメア長測定による膵胆管合流異常症が胆嚢粘膜へ与える老化変化の解明に関する研究

2004年から2016年までに膵胆管合流異常症で手術を受けた患者さん、および、胆道結石症・胆道腫瘍・膵癌・原発性肝癌以外で胆嚢摘出術を受けた患者さん

## 研究協力をお願い

当科では「テロメア長測定による膵胆管合流異常症が胆嚢粘膜へ与える老化変化の解明」という研究を行います。この研究は、2004年1月1日より2016年10月31日までに日本医科大学付属病院消化器外科にて、膵胆管合流異常症で手術を受けた患者さん、および、胆道結石症・胆道腫瘍・膵癌・原発性肝癌以外で胆嚢摘出術を受けた患者さんの臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

### (1) 研究の概要について

研究課題名：テロメア長測定による膵胆管合流異常症が胆嚢粘膜へ与える老化変化の解明に関する研究  
研究期間：2017年1月20日～2018年3月31日  
研究責任者：日本医科大学付属病院 消化器外科 青木悠人・谷合信彦  
本研究は東京都健康長寿医療センター研究所 老年病理学研究チームとの共同研究として行われます。

### (2) 研究の意義、目的について

膵胆管合流異常症の方は胆嚢癌を発症する可能性が高いと報告されています。この胆嚢癌は通常の胆嚢癌よりも15～20歳程若年で発症するため、癌発症前の手術が推奨されています。また、食道癌の前癌病変（正常組織よりもがんを発生しやすい、形態学的に変化した組織）であるパレット食道や、舌癌の前癌病変である舌白斑症など、さまざまな前癌病変で、染色体の末端の保護構造であるテロメアの短縮が認められます。

本研究は膵胆管合流異常症の手術時に切除した胆嚢の粘膜（壁）の細胞と、正常な胆嚢の粘膜の細胞において、テロメアの長さを測定し、膵胆管合流異常症で胆嚢粘膜のテロメア長が短縮し、癌を発生しやすい状態となっているかを証明する研究です。この研究は、将来胆嚢癌を発生しやすい病態の解明や、胆嚢癌を予防・治療する方法の研究の足掛かりとなる期待が出来ます。

### (3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2004年1月1日より2016年10月31日までに日本医科大学付属病院消化器外科にて、膵胆管合流異常症で手術を受けた患者さん、胆道結石症・胆道癌・胆道腫瘍（ポリープ含む）・膵癌・原発性肝癌以外で胆嚢摘出術を受けた患者さん（正常胆嚢：胆嚢に異常はないが手術時に摘出する必要があった患者さん）の手術時に摘出した胆嚢のうち、病理診断に用いなかった部分（パラフィンブロック）を使用します。テロメア長の測定は、パラフィンブロックを東京都健康長寿医療センター研究所へ送付して行いますが、その際には本研究専用の番号を用いて匿名化を行い、患者さんの氏名・住所など個人を特定できる情報は一切送付しません。その後、日本医科大学付属病院にて患者さんの年齢・採血結果・胆汁検査結果・画像所見・病理所見などを解析し、どのような患者さんでテロメア長が短くなっているかなどの特徴を検討します。

氏名・住所など個人を特定できるものは利用しません。また新たな検体採取や検査など、追加で依頼することはございません。

### (4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。またテロメア自体には遺伝子情報は存在せず、もうすでに摘出された臓器であるために、個人の寿命や今後の発症の可能性を予測するものでもありません。

### (5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

### (6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 消化器外科 助教 青木悠人 ・ 准教授 谷合信彦  
〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5  
電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：医局 6752  
メールアドレス：yutoaoki@nms.ac.jp